



## メンテナンス

---

- [電話機のレポート](#) (1 ページ)
- [電話機のリセット](#) (2 ページ)
- [音声品質のモニタリング](#) (4 ページ)
- [管理 Web ページからのコアダンプの管理](#) (7 ページ)

### 電話機のレポート

電話機を再起動することにより、設定が電話機に適用されます。

#### 手順

---

**ステップ 1** [設定 (Settings) ]アプリケーションにアクセスします。

**ステップ 2** [管理者設定 (Admin settings) ]> [設定のリセット (Reset settings) ]> [デバイスのリセット (Reset device) ] を選択します。

**ステップ 3** [リセット (Reset) ]を押します。

---

#### 関連トピック

[設定アプリへのアクセス](#)


### 代替ファームウェアへの電話機の起動

電話機は、以前のバージョンの電話機ファームウェアに再起動できます。これにより、以前のファームウェアのロードを一時的に使用することができます。

電話機が次にオンになると、新しいファームウェアの読み込みが使用されます。

#### 手順

---

**ステップ 1** [電源/コール終了 (Power/End Call) ]  を画面がオフになるまで長押しします。

- ステップ2 アスタリスク(\*)**\*+**を長押しし、[電源/コール終了 (Power/End Call)] **ⓧ**を長押しします。
- ステップ3 LEDが赤に変わったら、アスタリスク(\*)**\*+**と[電源/コール終了 (Power/End Call)] **ⓧ**キーを放します。
- 電話機は、以前のファームウェアバージョンに起動します。

---

## 管理 Web ページから電話機を再起動

電話機の管理 web ページから電話機を再起動することができます。電話機を再起動する前に、ユーザがアクティブコール中でないことを確認します。

### 始める前に

電話管理の Web ページにアクセスします。 [電話管理の Web ページにアクセスします。](#) を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ1 左ペインで、[再起動 (restart)] リンクをクリックします。
- ステップ2 再起動 (Restart) をクリックします。

---

## 電話機のリセット

電話機の工場出荷時設定を復元して、現在の設定をクリアすることができます。この復元では、すべての値を復元するか、ネットワーク設定またはセキュリティ設定を復元することができます。

## 電話機のメニューから電話機を工場出荷時の初期状態にリセットする

電話機を工場出荷時の初期状態にリセットできます。電話機は、ユーザセットアップとネットワークセットアップの設定値をデフォルト値にリセットしてから、再起動します。

### 手順

- 
- ステップ1 [設定 (Settings)] アプリケーションにアクセスします。
- ステップ2 [管理者設定 (Admin settings)] > [設定のリセット (Reset settings)] > [すべての設定 (All settings)] を選択します。

ステップ3 [リセット (Reset) ]を押します。


#### 関連トピック



[設定アプリへのアクセス](#)



## 電話機のキーパッドから電話機を工場出荷時の初期状態にリセットする

キーパッドを使用して、電話機を工場出荷時の初期状態にリセットすることができます。電話機は、ユーザセットアップとネットワーク セットアップの設定値をデフォルト値にリセットしてから、再起動します。

#### 手順

ステップ1 [電源/コール終了 (Power/End Call) ]  を画面がオフになるまで長押しします。

ステップ2 [シャープ (#)  ] を長押しし、電源/終了コールを長押しします .

ステップ3 LEDがオレンジ色に変わったら、シャープ(#)  と[電源/コール終了 (Power/End Call) ]  キーを放します。

ステップ4 **1 2 3 4 5 6 7 8 9 \* 0 #** を押します。

LED が緑で点滅している場合は、工場出荷時の状態へのリセットが進行しています。

LEDが赤色で点滅している場合は、工場出荷時の状態へのリセットは受け入れられませんでした。

## ネットワーク設定のリセット

電話機のネットワーク設定を工場出荷時の初期状態にリセットできます。電話機は、ネットワーク セットアップの設定値をデフォルト値にリセットしてから、再起動します。

#### 手順

ステップ1 [設定 (Settings) ]アプリケーションにアクセスします。

ステップ2 [管理者設定 (Admin settings) ]>[設定のリセット (Reset settings) ]>[ネットワーク設定 (Network Settings) ]を選択します。

ステップ3 [リセット (Reset) ]を押します。

#### 関連トピック

[設定アプリへのアクセス](#)

## セキュリティ設定のリセット

電話機のセキュリティ設定を工場出荷時の初期状態にリセットできます。電話機は、セキュリティ設定値をデフォルト値にリセットしてから、再起動します。

### 手順

- ステップ1 [設定 (Settings) ]アプリケーションにアクセスします。
- ステップ2 [管理者設定 (Admin settings) ]>[設定のリセット (Reset settings) ]>[セキュリティ設定 (Security settings) ]を選択します。
- ステップ3 [リセット (Reset) ]を押します。

### 関連トピック

[設定アプリへのアクセス](#)

## 音声品質のモニタリング

ネットワーク内で送受信されるコールの音声品質を測定するために、Cisco IP 電話では隠蔽イベントに基づいて次の統計メトリックを使用します。DSP は、音声パケットストリーム内でフレーム損失の部分マスクするために、隠蔽フレームを再生します。

### フレーム損失率のメトリック

音声フレームの総数に対する秘匿フレームの比率を示します。直近フレーム損失率は、3秒ごとに計算されます。

### フレーム損失発生秒数のメトリック

損失フレームが原因で DSP が秘匿フレームを処理する場合の処理秒数を示します。深刻な「隠蔽秒数」は、DSP 「」が 5% を超える隠蔽フレームを再生する秒数です。

### MOS-LQK メトリック

数値のスコアを使用して、音声リスニング品質を相対的に見積もります。電話機は、先行する 8 秒間のフレーム損失が原因の可聴隠蔽イベントに基づいて受聴品質 (LQK) の平均オピニオン評点 (MOS) を計算し、コーデック タイプやフレーム サイズなどの知覚重み付け係数を加味します。

MOS LQK スコアは、Cisco Voice Transmission Quality (CVTQ) インデックスというシスコ独自のアルゴリズムによって算出されます。MOS LQK バージョン番号によっては、これらのスコアは国際電気通信連合 (ITU) 規格 P.564 に準拠します。この規格は、評価方法、および実際のネットワーク障害の観測に基づいたリスニング品質スコアを予測するパフォーマンス精度目標を定義します。



- (注) 隠蔽率と隠蔽秒数はフレーム損失に基づく主要な測定値であるのに対して、MOSLQK スコアは受聴品質を測定するための「」5（優秀）～1（不良）の尺度に基づく同じ情報の「人間が重み付けした」バージョンを反映しています。

リスニング品質スコア（MOS LQK）は、受信した音声信号の明澄さまたは音質を示します。会話品質スコア（G.107 などの MOS CQ）には、会話の自然な流れを妨げる遅延などの欠陥係数が含まれます。

電話機の音声品質メトリックの設定方法については、Cisco Unified Communications Manager のドキュメントの電話機メトリックの項を参照してください。

[ストリームの統計（Streaming Statistics）] を使用して、電話機でまたはリモートから音声品質メトリックにアクセスすることができます。

#### 関連トピック

[電話機の統計情報](#)

## 音声品質メトリック

音声品質モニタリング用のメトリックを使用する場合は、パケット損失のない条件下で典型的なスコアを記録し、このメトリックを比較のベースラインとして使用してください。

メトリックにおいてランダムな変化と重大な変化を区別することが重要です。重大な変化とは、約0.2 MOS 以上の変化があるスコア、または30秒を超えるコールで持続するスコアです。フレーム損失率の変化の場合、3% を超えるフレーム損失を示します。

MOS LQK スコアは、電話機で使用されているコーデックに基づいて変化する可能性があります。次のコーデックは、フレーム損失率がゼロの通常条件で、これらのMOSLQK スコアを示します。

- G.711 および G.722 コーデックの最大スコアは 4.5
- G.729A/AB コーデックの最大スコアは 3.8

フレーム損失率がゼロの場合は、IP ネットワークが損失なく時間どおりにフレームやパケットを配信していることを示しています。

## 音声品質のトラブルシューティングのヒント

メトリックに大幅な変化が継続的に見られた場合は、次の表の一般的なトラブルシューティング情報を使用してください。

表 1: 音声品質メトリックの変化

メトリックの変化	条件
MOS LQK スコアが著しく減少	<p>パケット損失または高いジッターによるネットワーク障害。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平均 MOS LQK の減少は、広範囲の画一的な障害を示しています。</li> <li>個別の MOS LQK の減少は、集中的な障害を示しています。</li> </ul> <p>フレーム損失率とフレーム損失発生秒数を照合して、パケット損失やジッターがないか確認してください。</p>
MOS LQK スコアが著しく減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>電話機が適切でないコーデック（送信コーデックと受信コーデック）を使用していないか確認してください。</li> <li>MOS LQK のバージョンがファームウェアアップグレード以降に変更されたかどうかを確認してください。</li> </ul>
フレーム損失率とフレーム損失発生秒数が大幅に増加した	<ul style="list-style-type: none"> <li>パケット損失または高いジッターによるネットワーク障害。</li> </ul>
フレーム損失率はほとんどゼロであるが、音声品質が悪い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>音声チャンネルのノイズや歪み（エコーレベルやオーディオレベルなど）。</li> <li>複数のエンコード/デコードが使用されているタンデムコール（セルラーネットワークや電話カードネットワークへのコールなど）。</li> <li>スピーカーフォン、ハンズフリー携帯電話、またはワイヤレスヘッドセットから発生する音響問題。</li> </ul> <p>送信パケット（TxCnt）と受信パケット（RxCnt）のカウンタをチェックし、音声パケットが流れていることを確認します。</p>



(注) 音声品質メトリックでは、ノイズや歪みは考慮されません。フレーム損失だけが考慮されます。

## 管理 Web ページからのコアダンプの管理

管理 web ページを使用して Java コアダンプログを生成または削除できます。

電話機に保存できるコアダンプは1つのみです。電話機は、再起動するまでコアダンプを保持します。新しいコアダンプが作成されると、前のダンプが上書きされます。

### 始める前に

管理 web ページに接続します。詳細については、[電話管理の Web ページ](#)にアクセスします。  
を参照してください。

### 手順

- 
- ステップ 1 [ デバイスログ (Device logs) ] > [ コアダンプ (Core dumps) ] をクリックします。
  - ステップ 2 [ Java コア & ヒープダンプの生成 (Generate java core & heap dump) ] をクリックします。
  - ステップ 3 (任意) [ 削除 (Delete) ] をクリックして、コアダンプファイルを削除します。
-





## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。